

▼ビオチン散 [内]・▼注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ビオチン biotin 【分類】 ビタミンH (B群)

【単位】 ▼0.2%散, ▼1mg/A [2mL]

【常用量】 0.5~2mg/日

【用法】 ■内服：1日1~3回 ■注射：皮下注・筋注・静注

【透析患者への投与方法】 通常欠乏することはないが、減量の必要なし (5)

【その他の報告】 透析患者の筋痙攣や疲労に対してビオチンは有用 (小熊司郎, 他: 透析会誌 44: S523, 2011)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (5)

【特徴】 カルボキシル基転移酵素の補酵素。通常は腸内細菌で産生されているため欠乏症は起こりにくい。欠乏時にはビタミンB1欠乏に似た症状を呈する。

【吸収】 吸収率は高い (11)

【代謝】 大部分はミトコンドリアでβ酸化を受け、ビスノルビオチンになる (1) ミクロソームの酸化酵素でスルホキサイドになる (1)

【排泄】 未変化体・代謝物が尿中排泄 (1)

【t1/2】 3hr (1)

【蛋白結合率】 高い (11)

【Vd】 資料なし (1)

【MW】 244.31

【透析性】 資料なし (1)

【O/W 係数】 低い (11) 資料なし (1)

【更新日】 20151202

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。